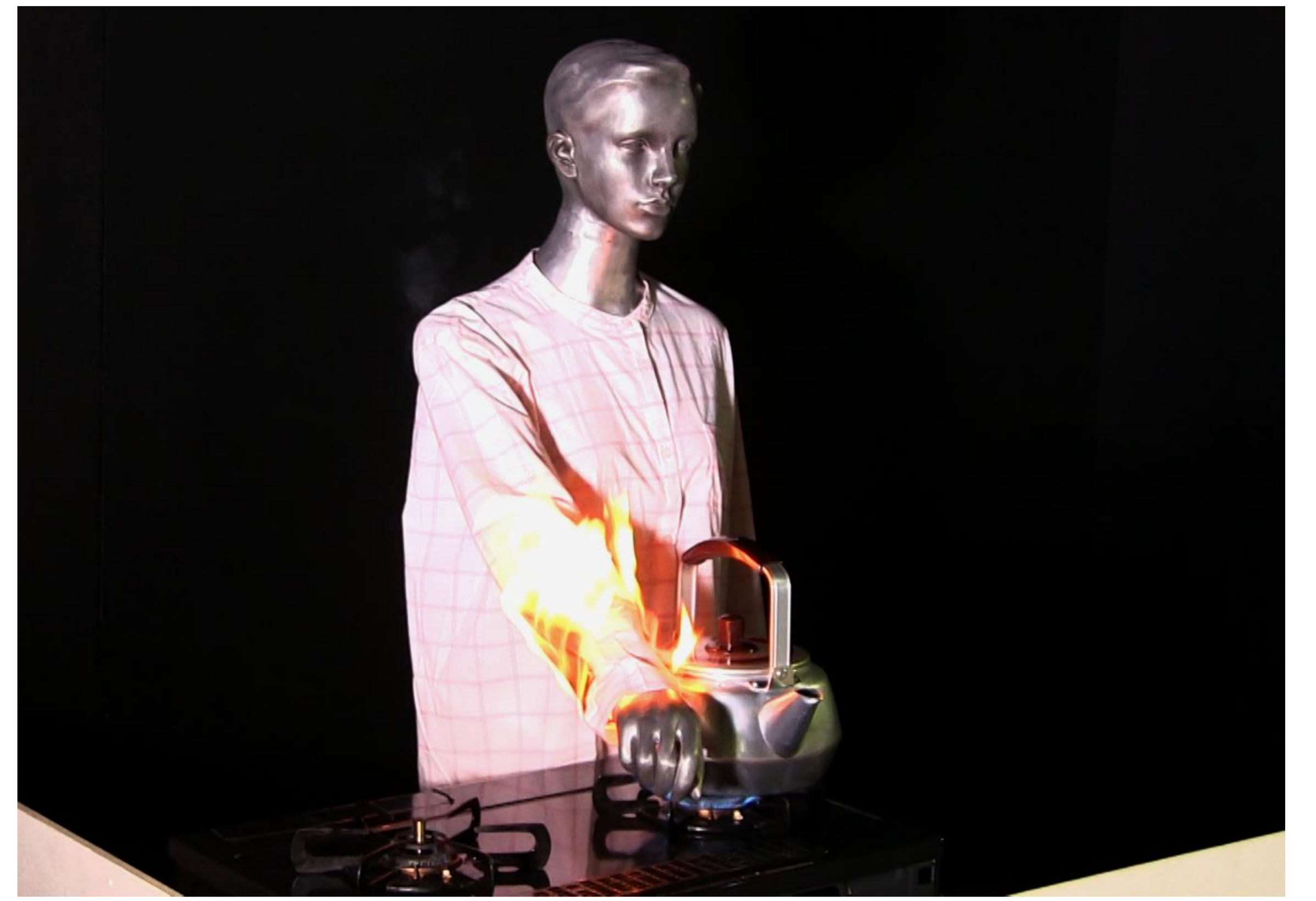


着衣着火の事故

事故の概要

【事例①】やかんで湯を沸かしていたところ、やかんを移動させようとした際に、こんろの火が衣服に着火した。

【事例②】ガスこんろで調理中に棚から鍋を出そうとした際、こんろの火が衣服に着火した。



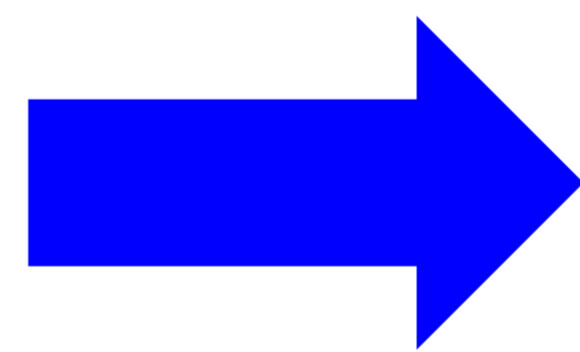
事故の原因

【事例①】やかんを動かそうと手を伸ばした際に、ガスこんろに近づき過ぎたため、着火したものです。

【事例②】ガスこんろの奥にある棚から鍋を取ろうと手を伸ばしたため、衣服がこんろの火に接触し、着火したものです。



火が直接触れていないが



袖口に着火

【NITEの再現実験】



事故防止のために

- ◆ガスこんろや石油ストーブなど火が付くおそれのあるものには、近づき過ぎないでください。
- ◆毛足の長いもの、ゆったりと垂れ下がったデザインのものなど火が付しやすい衣類には、特に気をつけてください。
- ◆火に直接あたっていないなくても、火から放射される熱により衣類等に火が付きますので、注意が必要です。
- ◆こんろの上の調理器具を移動させる際は、火を消してから行ってください。